

2013年6月通常総会議事録

日時：2013年6月19日（水） 11:00～17:00

場所：東京都渋谷区 東京体育館 第一会議室

出席者：（1頁参照）

1. 開会のことば

司会の安田副会長より開会を宣言した。
故對馬和也監事に黙祷を捧げた。

2. 会長挨拶

内田会長から、日頃の連盟活動への協力に対し感謝の意を表明するとともに本総会議事進行協力をお願いした。

3. 感謝状贈呈

パラグライディング教本DVDを制作し、教習、技術の見本等を映像にして貢献したチームに感謝状が贈られた。

3. 本通常総会概要説明と正会員出欠確認

司会より理事、出席委員長の紹介と、本総会の出欠確認が行われた。（1頁参照）

4. 出席確認：

出席正会員39名、委任状3名、議決権行使5名
合計出席者47名。

総正会員の過半数の出席を得て、本総会は成立した。

議事録作成人の指名： 事務局 桜井加代子

議事録署名人： 出席理事・監事

司会より、議事進行上の注意事項と、傍聴者の確認、公益法人となり新定款に基づく会議運営の説明が行なわれた。

5. 総会の目的事項

報告事項1 2012年度事業報告について

菊池理事から2012年度事業報告概要の説明をした。

報告事項2 2012年度決算報告・監査報告について

菊池理事から2012年度決算報告を説明の後、内田会長から補足、市川監事から監査報告があった。

決議事項1 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認について

議長（内田会長）：報告事項2の中で、貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）ならびにその附属明細書及び財産目録について承認をお願いします。

決議事項1について採決し

【賛成：45（賛成42、議決権行使3） 反対：0 棄権：2（議決権行使2）】
で承認された。

*昼休み休憩中に、パラグライディング教本DVD第2弾、ハングパラ振興委員会制作のパラグライディングプロモーションDVDの映像を放映した。

報告事項3 2013年度事業計画について

工藤理事から2013年度事業計画について説明した。
ハング、パラグライディングの愛好者を1万人以上に回復、若年層の比率を上げる施策の検討をしていくこと、安全啓蒙活動に努めていくこと等の方針を報告の後、質疑に入った。

沖縄県連：フライヤー人口が増えない理由を執行部はどう考えておられますか。

菊池理事：世間一般的には現在の若者達はアウトドア派が少なく、車の免許さえ取らない。経済的余裕とアウトドア志向が昔程ないということだと思います。

沖縄県連：始める時の機材一式が講習料金も含めて50万～60万円掛かると思うのですが、それがネックになることもありますが、その辺はどう思われているのでしょうか。
フライヤー人口を増やすということは具体的にどうしたらよいかということ、執行部だけでなく正会員の方も含めてお聞きしたいと思います。

菊池理事：私は実績として年間2千人位を教えていました。絶対に怪我をさせないことと、観光ルートにのせて広告も出していたのですが、今は観光ルートに入っている所も少なく、スキー人口も極端に減っています。お金が掛かるアウトドアスポーツは難しいと思います。スクールの方の具体的なご意見があれば参考にお願いします。

議長（内田会長）：執行部としては、このスポーツを知らない人が始めてみたいという切っ掛けを与えるのが一つの方法と考えています。具体的にはフォトコンテストを行い、そこで手に入った画像をマスコミ等で自由に使ってもらい、昨年は動画コンテストを行い、露出させて知らない人も見るチャンスを作るというようなことを理事会としてやっていくことでコンテンツ集めはしています。この場で議論が必要でしたらご意見をお願いします。

岡山県連：JHF本部としては、どこが増えて、どこが減っているか、どのスクールが増えているのかは分かっているのですか？ それに分かればある程度分かると思います。

議長（内田会長）：例えば定年退職の人が増えているなど情報としては掴むことがあります。個別の技能

証発行情報は持っているのですが、分析する為のデータはありますが、それを使い地域ごと、事業者ごとの実態差を詳らかにする資料は作っていません。技能証の発行統計は毎月発行しています。

沖縄県連：現在は年齢層は50代が多く、10年先を考えると厳しいので、愛好者増加の推進が大事です。やはり安い機体がないと難しい。一式揃えて19万8千円を出せるように皆が協力をすれば、多少は若い人も増えると思います。

議長（内田会長）：今日は日本学生フライヤー連盟の方がいます。若い人達の実態を知っていますので、機材が高い、練習する時間が取れないとか自由な意見を聞きたいと思います。

日本学生フライヤー連盟 安田理事長：実態を述べますが、4月～5月に新歓活動をしました。一般的には認知度は低いです。体験させれば分かってもらえると思うのですが、活動場所が茨城で大学に入りたての人には難しい、入部しても最後にお金の面で迷って止めてしまう人もいてネックだと思います。本当は学生は時間を作れてバイトなどをし、お金が本質問題ではないですが、新入生はまだ高校生の延長でわかってないです。若年層のフライヤーを増やすには学生フライヤー連盟が窓口であると思います。

山形県連：私は50歳未満が80%以上のスクールをやっています。機材の値段の問題と若者の問題が出ていますが現場の実感を述べさせていただきます。練習、勉強、移動の時間は厳しいかも知れませんが、自分で段取りをして物事をこなすのは成長する部分があるので全力で応援したいのですが、歴史のある山岳部でも廃部になっている所も多い。携帯にはお金は掛けています。機材の料金ではなく、今の物価、バイト代、給料水準から言うと決して高いものではないと思います。値段は可能なだけリーズナブルにとは思いますが、安全性や楽しさの価値を上げることに全力を尽くしたいと思っています。

熊本県連：安いと入りやすいということはあると思います。今の社会情勢の中で、普及を目的として、それを近づけるためにはプロジェクトとしてCMをやりながら、機材を購入しやすくする、入ったら皆でサポートしていく流れを作っていけばよいと思います。

沖縄県連：20～30代も含めて学生だけには拘っていません。ソアリングは出来ないけど安全に降りるだけで一機目を安くするイメージしていました。お金が掛かるスポーツであると開き直ればいいのかとも思います。

群馬県連：日常のお金の使い方色々変わっています。サークルによってお金の使い方等が異なるかも知れませんが、学生には安く教えられるように考えています。うまくやれば学生は増えていくと思います。JHF委員としてDHVに訪問しているので、その報告も兼ねます。DHVは会員数が増え今年で約3万6千人で、去年から比べても2千人増えています。どのような活動をしているか聞いたのですが、何をしているという訳ではなく、安全に一番力を入れ、事故を減らすということです。事故を減らす為には、DHVインフォという雑誌をメンバーに配布するのですが、その中に安全に対することがハッキリ書かれています。またインストラクターのハードルが厳しい。数年前からあるレベル以上じゃないとライセンスが取れない、JHFで言う助教員のレベルもかなり高く指導者側のレベルが高い。坂本さんもトーイングに力を入れてやってくれています。DHVでも安全性が高いトーイングのノウハウも勉強して来ました。山を飛ばせることだけでなく、底辺の拡大とか色々なビジネスのレベルを作っていきたいと思っています。

沖縄県連：岡さんにお聞きしたいのですが、CIVILの会議とかで、海外でもパラは高齢化しているのでしょうか。人口は減っているか増えているか情報はありますか？

PG競技委員会岡委員長：公の場でDHVが増えていることは聞いています。フランスも増えていると

言いますが、パラ、ハングだけでなく、カイト等も一緒なので何が増えているのかは分かりません。年齢層についても把握していません。

東京都連：増やすのには底辺の拡大が基本だと思います。人が多い所でトーイングの体験をする等、安く簡単に体験が出来るという仕掛けをいかに工夫して実現するか、海外で実績が上がっている実態の情報集めをして取り入れられるように考え工夫をして進めていけばよいと思います。

大阪府連：人口だけ増加させるとあっても具体的な案が出ていません。どちらかと言うと安全面を強化し、事故を少しでもなくす方がこのスポーツが生きる道だと思います。手軽にすぐライセンスを取れ、教員のレベルも下がって来ている気がします。それが人口増加に繋がると考えられて来たのだと思います。教員検定員の所で試験を受ければ合格でどんどん教員、スクールを増やそうとなっていたと思います。結果的には増えていません。それより事故があった時マスコミが騒ぎ、事故が多いというマイナス面が大きい、人口を増やす為にはどうしたらいいかというのは、事故を一つでも減らした方がいいと思います。学生でも女の子で入りたいけど悩んでいるというのは親に反対されるという人が多い。それはテレビや新聞で事故を聞いて危ないからです。お金の問題もありますが、お金は二の次だと思います。ただ人口増加ではなく安全面をどうしていくかを考えた方がよいですし、パイロットも更新制にすべきですし、検定員も一人ではなくきちんと集めて厳しくしていかないとレベルは下がっていきます。事故がゼロになるとは思いませんが、その辺が杜撰な気がしますので、安全面に関してもっと真剣に真摯に考えた方がよいと思います。

議長（内田会長）：これまでJHFがやって来たことを見直して、すでにパイロットを持っている人は永久にパイロットということの見直し、安全面に関して指導者のレベルを上げるという所へ軌道修正ということで他のご意見はいかがでしょう。

京都府連：毎年普及の話が出ていますが、教員の再度見直し、高齢化された教員、新規教員をどうするか。よい教員を作ることが出来ていません。なぜかという保険関係で守られていません。スクール賠償の問題があり、そういう所に就職出来るのか、自分でスクールを起こせるか、人を怪我させて裁判が起こったら家庭、財産崩壊します。普及と言うのは機材の金額の問題ではなく、いかにやりたいと思わせるか、やりたいと思わせる為の教員をどうするかです。これから新しい教員を作ってインストラクションを考えていかないといけません。若手育成をして教員を守って欲しい。それがないと普及、増加もありえません。今の教え方を変えていかないと駄目だと思います。

議長（内田会長）：保険が効かないのはハングのスクールで、パラグライダーについては保障が取れるようになっています。ハングのスクールについては保険会社と継続し話をしています。申し訳ございません。

京都府連：パラは色々安全面を考えてやって来たのでまだ保険で守られている部分があります。ただここ2～3年は保険会社が拒絶方向に行き始めハングだけではないと思います。ぼちぼち、教員、フライヤーの老害が始まります。40～50代のハングフライヤーも怖くなると言っているのですが、パラグライダーも同じく高齢者の方々が老害で事故になっていくと思います。そうならないようなインストラクションを考えて若いインストラクターも増やす。委員会で色々考えていただきたいと思います。執行部では保険を考えていただきたいです。

岐阜県連：今はセーフトローピングで安全で確実に出来るというシステムを取り入れています。業界の皆様には申し訳なかったのですが、5月に地面にワイヤーを張ってハンググライダーが傾かないようなセーフティローピングのシステムで、アンカーボルトが外れ生徒さんが上腕骨折の事故を起こしてしまいました。普及に関して事故を起こさないことが一番なのですが、人口を増やしたいと思いがらそういう事故が起きてしまいます。運悪く任意保険にも入っていなかったため、入院、手術費用も全てこちらから支払うことになりました。今年大学を卒業した生徒が一人スタッフで入ったのですが、ハングが施設賠償責任保険に入れないということで、この先そういう事故が起きたら厳しいということ懸念しています。個人の1スクールでは保険会社は見向きもしてくれないので、会長が言われたように引き続きハングの施設賠償責任保険も団体としてやっていただきたい。事故が自分達の身に起きて切実に感じております。

普及に関しては機材の価格、告知、広告も大事だとは思いますが、やはり事故を減らすということが第一に来ると思います。

別の提案ですが、ハング、パラの競技会の開催時、見学に来たマスコミやギャラリーの方が、競技内容やこのスポーツの見所や魅力を誰に質問したらよいか分からないという意見をいただいています。JHFで競技会用のスタッフユニフォーム、ジャンパーやTシャツを制作して持ち回りで使用できれば、色々な方が質問しやすくなって認知度を高めるきっかけになるのではと思います。

香川県連：安全と普及は両輪です。どちらかが良い訳ではありません。安全は消極論、普及は積極論であって、両方必須です。だから安全を軽視という事ではなく、そこに力を入れるのは大切なのですが、具体的な数字で執行部が言えない、リサーチが出来ていない。私は補助動力をやっていますが合理的に数字で示す観点が抜けていて、うまく説明できないということを反省させられました。この観点は、当たり前というリサーチをして方策を練る、リサーチの部分が少し抜けていたのかなと思います。モーターで飛行自粛の話をした際、モーターは全体で10人いたらJHFか他団体に属している人は3人、だから私が頑張っても伝わらないと言ったのですが、それであっても自分の所だけでもきちんと言うべきと言われました。世の中の流れは変えようがないのかも知れませんが、自分達で努力しなければならぬし、JHFとしても何かもう一歩踏み込めてなかったことは素直に反省しやっていくべきではないのかと思います。

群馬県連：情報ですが、ヨーロッパにPMAと言って、パラグライダーの機材メーカーが30社位集まった団体があります。そこで世界全体でパイロットは何人位いるかということで2008年から実施して、2012年の段階で約11万7千人のパイロットがいるということです。日本側も知らせています。

東京都連：ハングは機体の関係もありますがJHFとして保険会社と交渉して欲しい。

菊池理事：傷害保険の加入者の内25%が怪我をして保険を使っているのであれば、それを受ける保険会社はないと思います。皆さんは保険を頼りにと言いますが、保険会社は採算が合わないことはやりません。フライヤー保険も2千万位払って1億円近く使っていたらいずれは受けてくれなくなります。要は事故を起こさないことしかありません。事故を減らす努力をするしかないのですよ。

京都府連：それをやる為にはどうしたらよいか、やはり教員を変えるべきです。安全面をもっと考えるべきです。それが現実です。もちろん保険会社は損する仕事はしません。普及と安全と言いましたが難しいことです。それを何とかしてくださいとお願いしているのですよ。

埼玉県連：先に総会の議題を進めて、そのあとに意見交換会をやっていただきたいと思います。

議長（内田会長）：岐阜県連から提案がありましたが、競技会でスタッフに目印を付けたいということで。競技委員会とは別の正会員の体験会等には保険面ではバックアップをしています。アジア選手権で

使ったものですがスカイスポーツをしていますというノボリ旗があります。こういう目印のようなものについてご意見をお願いします。考えられるとしてもジャンパーとか都度洗わないといけないものではなく、腕章とかになるとと思いますが、用意した方がよいですか？

正会員数名：腕章はいらないです。

ハングパラ振興委員会芦川委員長：例えばビブスのようなものがありますが、それを大会の競技委員長等は必ず着けるといことですよ。

議長（内田会長）：岐阜県連さん、役員に対して必要ということですか。

岐阜県連：役員だけでなくスタッフで、外部の人がこの人に聞けば色々分かるという目印です。個人的には腕章では目立たないので、池田山とか夏は暑いのでジャンパーでは着ないのでベストのような物が無難だと思います。

議長（内田会長）：ではベストの様なものを用意するかどうかは新しい理事会で検討します。では、他の事業計画上の活動等でご意見、提案等ございましたらお願いします。

大阪府連：補助動力委員会のことですが、モーターパラグライダーに限らず、トーイングの話が出ています。教本や補助動力の教員検定の基準は進んでいるか、トーイングが賛助会員のラムエッティさんや岡さん、ハングもやっています。これも補助動力ですので、使える技術や知識があります。補助動力委員会がマンパワー的に教本や教員検定のシステムを作るのが大変であれば、トーイングを合わせて補助動力を進めていただくとよいものが出来ると思います。これからトーイングは色々出て来ると思います。システム側のマンパワーをしっかりと、しっかりとしたものを作って欲しいと思います。

補助動力委員会須藤委員長：今年に入り教本を作っています。今回の総会で間に合うかという所まで来ていました。トーイングに関してもラムエッティさんも拝見し、滋賀に行きハングのトーイングも委員会で見学に行き参考にしてトーイング教本も作ろうと動いています。

茨城県連：このパラグライダーのパンフレットはハングも作る予定はありますか？ 教員スクール事業委員会で教員検定員検定研修会があると思うのですが、トーイングのシステムも取り組んでやったらいいかがでしょうか。

議長（内田会長）：パンフレットは事業報告で出しましたがハングパラ振興委員会で作成しました。費用も掛けているのでハングとパラを両面でという話もあったのですが、使う場所が違うということでパラグライダーだけに予算を使いました。ハングは委員会の協議では、パラパンフレットの反響で決めます。来春の検定員研修会ではトーイングの研修も決まっています、ある程度の希望については次の理事会に申し送ります。安全の為に資格制度を作れという意見と、現場で研究が進んでいるので、その成果を見てJHFがバックアップするのがよいという意見があります。制度化では技能証、教員も影響しますので、その際は補助動力委員会だけでなく、制度委員会等も関係します。言われたことについては教員スクール事業委員会も聞いていますので、現行の状況や情報共有はやってもらうようにしたいと思います。

福島県連：普及はテレビ媒体に出るのが一番手っ取り早く、平木さんがテレビに出ていましたが、今回のブルガリアの世界選手権、アキュラシー世界選手権はもう選手は決まっていますか。その人達が1位を取ってくることが一番です。報告書に出来るだけ載せて、寄付をもらう等良い方向に持って行った方がいいと思います。行った、報告したとかで、選手にモチベーションを高めることも必要だと思います。

議長（内田会長）：JHFはどのように活動していくかの事業計画の報告を終わります。これらやるにあたり、どんなことにいくら使うか、次は予算をご報告します。

報告事項4 2013年度収支予算について

工藤理事から収支予算の説明の後、質疑に入った。

青森県連：学生連盟への助成は増額してあげたい。若いフライヤーを増やすにはという話もありましたし、青森県内にもサークルはありますが、学校から助成が出る部活と出ない部活があるようで、学連の事業で他府県等に移動する時は自費になるので、県連の剰余金からそのサークルに出しています。

京都府連：今年の学生連盟の総会に顧問として参加しました。9時から19時迄頑張ってやっていました。30万に引き上げた経緯もあります。人数が少ない中お金を出し合っています。やはり若い金の卵達をバックアップして欲しい。少しでもサークル、クラブでの経費等に多少でも補助金が役に立てればと思います。自分達で自主的に頑張る人を増やそうとしています。よろしくお祈りします。

茨城県連：毎回学生連盟の会計監査をしています。お金を出してあげるのもよいのですが、学生なので甘い部分もありますのでJHFで学連の担当を作って面倒をみてあげた方がよいのではないかと思います。

新入生も増えていますし応援してあげたいと思います。

議長（内田会長）：JHFの理事には学生連盟担当はいません。考え方としてJHFの下部組織ではなく横に並んでいます。各委員会は理事会の下にあり担当理事がつくのですが、学連はしっかりとした組織ですので会長の私が直接対応しています。

予算案ですが、3月中に内閣府に提出しています。青森県連さんからありましたが、法律上予算の差替は可能で、理事会で修正、決議して内閣府に修正を提出することは可能です。それ相応の理由が必要で面倒な手続きになります。基本的に学生連盟の補助金増額はいかなるものかだと思います。

従来の20万から30万にしてあり、増額により無目的な補助金を積み増すことはやめて、学生連盟としてやりたい事業、これをやるにはこういう計画と予算でという企画を理事会に提出してもらい、それに対して理事会で費目を決めて出していきたいと昨年はお話しました。今年度も基本姿勢は変わらず、第1回の予算としては関東地区の安全セミナーについて文書理事会で承認して出費しています。具体例毎に援助はしていき、無目的な援助は30万の予算とさせていただきたいと思います。

日本学生フライヤー連盟安田理事長：学生連盟の中のお金は会員から徴収のお金、補助の30万です。昨年は新入生の参加費を下げたことで参加者も増えました。20万はエントリー費の補助。残りはイベントの補助と考えていました。学生連盟に対して補助いただき、ありがとうございます。

長崎県連：パラグライダーのパンフレットは印刷してくれるのでしょうか。

議長（内田会長）：委員会予算で印刷したものがあり、その在庫を配りました。会員向けホームページからダウンロードができます。要望が多いようであれば印刷します。委員長一言どうぞ。

ハングパラ振興委員会芦川委員長：ぜひともご活用いただきたいと思います。これと合わせてパラグライダーのプロモーションDVDも作りましたので、こちらもご活用よろしくお祈りします。

山形県連：各地で印刷するより本部で大量に印刷していただければと思います。DVDというのは出来ているのでしょうか。

議長（内田会長）：出来ていますので映像を流します。このバージョンと字幕が入ってパラグライダーを始める基本的な情報が入っているものがあります。コピーではなく量産プレスをして作成します。希望者にお配りします。正会員さんにはお送りしますので、メディアとして色々な所で再生していただければと思います。こういうものを露出していきたいと思いますので、それぞれの地域でご活用ください。

群馬県連：映像はYoutubeでは駄目ですか。県連のホームページに貼れます。

議長（内田会長）：委員会ではあらゆるメディアと言っています。理事会では、Youtubeと一般公開レベルで出すのは禁止ではないのですが、それをするならJHFでコントロールしているウェブページに自力で埋め込むことをやっています。ダウンロードして他の目的で使われることもあり注意しています。補足ですが、予算について2012年度決算は黒字になりました。受け取ったフライヤー会費を事業に使い切れずに余らせました。公益社団法人についてはあまり喜ばしいことではなく、遊休財産が増えます。2013年度予算は収入よりもたいへん多く使う予算額になっています。これも本当に使い切るのではなく、きちんと事業をやることで予算案が決算と乖離しないように、JHFが健全であるというのは本来きちんと事業を行い、適度な資産を残して活動していくことが予算書の意味することです。では、質問等なければ収支予算の報告を終了します。

決議事項2 JHF役員を選任について

役員選任実行委員会荒井委員長より投票についての説明の後、役員立候補者の挨拶をした。

（あいうえお順）

○理事

芦川：前年度からハングパラ振興委員長をさせていただきました。前々年前から総会に出ていますが、遅々として物事が進まないのを感じていまして、微力ながらお力になればと思い立候補しました。優先させることは飛んでいる人の安全と、普及ですが、闇雲に増やすことではなく、フライヤーを増やすためにはまずハング、パラを好きな人、もう少し若かったらやりたかったとか、小学生等に将来やってみたいと思わせることを少しでもやりたいと思います。

荒井：8年間やって何とか健全になるようにしてなつたと思います。これからは人を増やすように一生懸命やっていきたいと思っています。

内田：出来ていなことも含めてまだやれることをやらなければいけないと感じていて、続けて役員をやらせていただきたく立候補しました。

大沢：やはりまだやり切れないことがあるので、微力ながらJHFをよくしていいこうと立候補しました。

鹿山：理事になりましたら連盟全体の目標を理解して頑張っていきたいと思っています。都道府県連盟が少しでもプラスになれるように努力します。今は、教育関係にいますので、スカイスポーツの理解と普及の為にということで講演しています。少しでもプラスになるよう、安全を第一に考えて活動していきます。

工藤：先輩方がやり残したことがたくさんと言っていたので、人間を増やす為に安全第一でさらに頑張りたいと思います。

塩坂：静岡から推薦を受けました。振興委員を務めましたが、1つは企業で言ったらここは倒産状態で

あるので何とかしないとイケない、2つ目は会員を増やすことを具体的に数字で示す、若い教員は、年収700万にしなければいけないとマニフェストを書きましたが、それが実行出来ないようであれば理事は辞めるべきだと思っています。

福永（代理：香川県連）：本人から預かって来ました。来年で20年、鳥のように空を飛ぶことで虜になったのもJHFのおかげで感謝しています。四国ですが自営業でもありますので粉骨砕身努力しますので、どうぞ宜しくお願いします。

殿塚：フィールドジョイをやっています。昨年から振興委員会で活動しパンフレットとDVDを作らせていただきました。私が活動する中で、ハング、パラの認知度をどう上げていくかが課題だと思っています。それ以外にも保険、教員育成等、たくさん問題があると思います。何が出来るか分かりませんが、少しでも前に進めていけたらと思っています。

○監事

市川：財政が健全であること、運営が定款の目的に沿って行われているか、チェックは公平公明、透明にすることだと思っています。主務官庁の検査が厳しいので尽力して行きます。

岩村：会計士の岩村です。1980年頃からハングを続けていたのですが20年以上現役のパイロットではなくJHFは知らなかったのですが、公認会計士として色々な所をみてコンサルしていました。内田会長に誘われて微力ながら監事の責任を果たしていきたいと思っています。

役員選任実行委員長：開票作業中に議長に戻します。

議長（内田会長）：時間が限られていますが開票作業中の間に意見交換をしたいと思っています。

大阪府連：大阪府警本部から通達です。皇族が来るということでパラ、ハングの飛行に関して文書書面での事前通達です。近隣の府県にはJHFから出していますが、大阪にはエリアがないのでモーターか近隣のクロスカントリー以外は飛ばないと思うのですがお知らせします。（詳細説明）

岐阜県連：JHFではエマージェンシーパラシュートの交換期間が8～10年になっていたと思います。実際、10年以上、20年位のリパックを依頼されることがあります。認定者として署名をしていますが、そのようなことに責任を持つ、経年劣化によって開傘時間が遅れるかも知れないものについて署名をしたりすることは皆様どのように対応されているか質問したいと思います。

安全性委員会桂委員長：リパック認定証の研修の中で、メーカーの指定がなければ8～10年ということでしたが、タグを貼る作業については10年以上の物についてはリパック認定証に基づくリパックはお断りしていただいていると思います。

制度委員会小林委員長：制度上ではリパック認定証規程があります。規程とテキストを改定する予定になっています。10年以上経ったものについてはリパックしたとしてもタグを貼らないという対応としてJHFとして動いていこうかという話になっています。

静岡県連：輸入販売もしていますがスクールもやっています。買い替えの動機としてJHFで決まっているからとかマニュアルに書いてあるからとはあるのですが、その一方でラストチャンスという部分もあり、それが開かなくて事故が起ってしまったりして重大事故になってしまい、その時にフライトエリアの方々に迷惑をかけることもありえるから、自分のことだけではないので買い換えることも考えた方がよ

いとお客さんに案内することが多いです。

和歌山県連：スクールを行っていますが、静岡県連のように10年を迎えたレスパラに関しては、最後だから次迄には買い換えてくださいと言っているのですが、次は持って来てもできませんという決定打がないので、今の所、買い換えは10年以上経っているものもあるかなと思います。もちろん損傷があるものはすぐに買い換えるようにしています。

岡山県連：エリアの特性とかによっても違うと思うのですが、私達のエリアは商業エリアが少なく、リガーを持っている人もいますが、エリアでリパックしないと飛べないという規制はなく、古い人も多く、10年以上使っている人もいます。現実には事故は起こっていませんが、買い換えには何らかの具体的な情報が必要だと思います。それを出してはいただけませんか。例えば開かなかった例とかがないと説得力としては薄く、認知されないと思います。10年以上使っている人はかなりのベテランで自信を持っている人です。

議長（内田会長）：制度委員会から明確な規程にするという方向なのですが、質問に対して、検討してきた背景から8～10年というのはどうなのか説明お願いできますか。

制度委員会小林委員長：委員会では8年という意見もありました。例えば劣化しなければいいとか、破れなければいいという意見もありましたが、経年劣化もありますし、リガーがリパックをするのは責任問題もあり、ある程度JHFとしてはリパックするけどシールは貼れないという妥協案になります。必ずそうしなさいということではないのですが、警告という意味も含めて10年ということです。

議長（内田会長）：強制力についてリパック認定証は、技能を持っているということを確認しているだけ、エリアでリパックシールが貼られていないから飛ばせないというのは今の所はない。各エリアで態度を決めてもらいエリアルールにしてもらうということになると思います。

群馬県連：8～10年ですが、ドイツの軍隊の廃棄処分が10年で、それも分かり易い参考例ですが、マテリアルチェックの時に破れなければいいというのも判断の一つだと思います。あとはハーネスも今迄メーカーが作っていますが、パラの場合はパラシュートと合っていないものもあって、ゴミや砂が入ることもあり、摩擦で生地が傷んでいく、海水も傷みます。その辺は注意をした方がいいと思います。

議長（内田会長）：リパック認定証制度については3年以上が経ちました。見直しといくつかの批判も受けています。その中で、当初考えていた更新制度と若干実務運用を変えた形で更新制度を動かしていくという時期になっています。改定となると認定証を使われる方は、もう少しきちんと資格というか、技能を絞込み、誰にでも出来るということではなく、きちんと出来る人に絞り込んでいくことだと理解しています。

それでは、開票が終わったようですので、一度終了して、開票結果が出たら決議事項に戻ります。

役員選任実行委員会荒井委員長：では結果を発表します。全員が信任でしたが獲得数の上位から決まります。

芦川33、荒井21、内田37、大沢33、鹿山22、工藤32、塩坂22、殿塚34、福永22、安田25、市川38、岩村37

従いまして理事が、芦川雄一郎、内田孝也、大沢豊、鹿山登、工藤修二、塩坂邦雄、殿塚裕紀、福永信也、安田英二郎、監事が市川孝、岩村浩秀となります。以上です。

議長（内田会長）：では決議事項2として、役員を選任につきましては定款並びに役員選任規約に基づきまして、過半数以上の賛成があった方が役員となり、その条件により発表されました。本来、読み上げ

られた9人+2人の全員について議決が行われる必要がありますが、今の投票で全員の議決が行われたこととなります。ここで議決されたということになりました。ありがとうございました。では決議事項を終わります。

決議事項2について承認された。

6. 報告及び連絡事項

議長（内田会長）：東京都連の事務局から国体デモスポの説明があります。

東京都連鈴木事務局：パンフレットを配りましたが、今年東京都で国体をやります。デモスポとしてアキュラシーの大会を50名計画しています。場所は大田区の大摩川河川敷です。簡単に書いてありますが、東京都内在住又は当連盟が認めた者となっていますので参加できます。ホームページから申し込みますのでよろしくお願いします。

岐阜県連：池田山で今年の8月14日～18日迄ハンググライダーの日本選手権が開催されます。実行委員会でA2版のポスターを作成しました。正会員の皆さまには3枚ずつJHFから送っていただけるそうなので、各ショップや対外的にスカイスポーツをアピールしたいので、外に向けてPR出来る所に貼っていただくと幸いです。よろしくお願いします。

議長（内田会長）：事業計画の中でどういう風にしていくのが良いか、もう少し話し合いをしたいと思います。高齢者についてどう取り扱っていくかですが、安全について厳しい対応をしていくべきで、パイロットの更新制度とか、教員の質をあげましようとか、厳しい方向の活動方針についてご意見をお願いします。

北海道連盟：大阪府連から提案のあったフライヤー、教員を厳しい方向にするということは安全性を高める上で当然あるべき姿かと思えます。それとフライヤーを増やすということですが、先程の感じの流れだと繋がっていますが、制度を厳しくするということと合わせてフライヤーを増やす取り組みは並行してやらないといけないと思っています。

福岡県連：教員関係を厳しくするというので、皆様のご意見をお聞きしたいのですが、2014年3月には教員検定員の方々の研修会をやります。検定員はそれぞれ教員更新講習会を開催します。そのカリキュラムを作っているところなのですが、教員像を具体的にどうお考えかお聞かせいただくと今後のあり方が少しずつ見えて来ると思います。

東京都連：その前に、ドイツの教員の状況、情報が分かりましたら紹介していただきたいと思えます。

群馬県連：聞いているだけですが具体的な所迄は説明できませんが、JHFで言う助教員のレベルは、パイロットの方が助教員になるとしたら検定会のカリキュラムに参加出来るかどうかで3日間使い2名の検定員によりジャッジされます。OKが出たら2週間トレーニングを受けて最終的に検定。実技1週間、SIVもあります。1週間は座学を受けて合格するかどうかシステムです。参考までに。教員については確認しないと分かりません。

議長（内田会長）：では、福岡県連からありましたが、どういう教員を育成していくかというイメージもお願いします。

大阪府連：現状の教員検定会はパイロット検定と変わらないと思えます。教員は教える技術があるかど

うか、それについての技術はありません。案としては、必ずもう一人パイロットを連れて来て、その方を誘導し、サポートをして飛ばして見るということにはなっているのですが日程的にもそれは出来ていない。厳しくと言うのが言葉に出っていますが、私個人としては厳しくしているのではなく、今が緩すぎるのではないかというのが率直な考えです。具体的な案ですが、教員がパイロットレベルで何とか出来ていれば合格という現状で、無線誘導、風の判断、模範演技をどの位見せられるかというカリキュラムが実際はされていないと思います。教員更新講習会についても、5～6年前に一度航空力学の赤坂氏とかエベレストに登った方のロープワークとかレスキューとか、斬新と言うか、聞いて勉強になる知識や技術を教えていただき、私達は検定員になったと思うのですが、その後はそれ程突起した勉強会になっていないのが現状です。更新講習会に呼ばれても、去年と同じ様な内容、または3年前と同じ様な内容でしか講習会が出来なかったりするので、+αで自分が知っていることや聞いたこと、最近のグライダーでメーカーの人に聞いたこと等を講習で入れています。3年前と同じ講習会と内容が一緒でしかない

とお金を払って講習会に来られた教員の方のモチベーションも下がりますので、その辺のレベルアップも必要かなと思います。

群馬県連：日本やドイツで大きく違うのは知っている方も多いと思いますが、日本の場合は卒業するまで200～300本は飛ばせていると思います。ドイツだと300m以上の山で60本、大体は1000m位なので短期間でA級ライセンスを取得します。それを取ればクロカンは出来ませんが自由に飛べます。短期間で濃厚なことを教えてないといけないということもあり、教員レベルも高いということもあると思います。実際にA級の取り立ての方もいたのですが、日本の感覚だとパイロットには早いかとも感じました。ドイツはイントラの立場から見た場合に現状がまだいいとは思っていないようでした。

議長（内田会長）：新しい役員は人数も増えますし、その中で何か担当してやって行きますが、急ハンドルは切れないと思っています。来年1月から変えるとかはなかなか出来ず、こういう風に何年か後に変えますということになります。5年も前から同じ更新制度等の話をしております。皆さんの多くの意見で事故がマイナスイメージに影響しているの、急に何かを厳しくする等の検討にはならないのですが、比重を変えることで受け取りたいと思います。

東京都連：事故を減らして、安全な楽しいスポーツということに舵取りをしていくことから、具体的にインターネットやDVDで何年迄には何をめざす等のグランドプランを理事の皆さんで建てて進めたいと。特に情報についてはDVDという媒体がありますので、模範演技やフライトのコツ、我々が求めている新しい技術とかを電子媒体を使って、教員やパイロットへの情報サポートを計画的にやっていただきたいと考えます。

議長（内田会長）：情報をDVDと言ったのは、制作したDVDを活用ということによろしいですか？

東京都連：大学の入試の予備校をイメージすると分かると思うのですが、人を惹きつける技量があってそういう人のビデオを共有財産として展開していく、技術も新しくなると思いますので、お手本になる技術の高い人のDVDをぜひ作っていただければと思います。

議長（内田会長）：それをまさにDVD制作チームの方々が2年間をかけて視覚化してくれたと思っていますので、その有効活用をしていくということで取らせていただきます。

群馬県連：DHVとパラアカデミー社に行ってSIVのことも学んで来たのですが、そこでDVDもいただいて来ました。今回作ってもらっているものはとても良いです。こちらの内容のことは違うカテゴリーになります。トレーニングの仕方、トーイングやハング等も含めてかなり濃い物になっています。この日本語版を作ればよい勉強になると思います。パラアカデミーもやはり作っていただきました。

あちこち訪問し、あちらも時間を作ってくれて聞きたいこと教えてもらっているので、日本語版を作ればあちらも喜ぶと思います。S I Vで年間250名教えているそうです。頭の中にイメージを作って指導しているので日本語版にすれば役に立つのではないかと思います。

沖縄県連：教員の資質向上と言っていますが、助教員は各県連に任せています。それについてはどうなのでしょう。

議長（内田会長）：助教員検定は各県連の主催で実施しています。助教員を検定する助教員検定員も理事会から指名した人ではなくて、県連が助教員検定員として推薦した人をお願いしています。実際の教習を1年経験した方が教員検定員の元で教員検定を受けられます。助教員という段階もJHFで扱う方向にするか、別の改善方法があるかというご提案ですか。この制度に手を入れる考えはありませんでした。

制度委員会小林委員長：現場で困っていることの1つですが、助教員は県連が推薦する助教員検定員によって検定が運用されます。これは検定員の資格を持っていなくても出来ます。そこが難しいのですが、厳しくしてもよいのであれば制度上検定員が検定を行うということに予算をいただければと思います。

議長（内田会長）：歴史的には各都道府県連盟が存在する意義は何かと問われた時期があり、それより前にJHFを法人化した当時は地区連盟だったのを都道府県に連盟を作る時に役割を作らないといけなくなり、その県連に必要な資金が入るよというところが歴史だと思っています。小林委員長から助教員に対してもJHFが関与してもよいのではということのご意見をいただければと思います。

山形県連：検定員、助教員検定員も兼ねています。助教員は検定が出来ないだけで講習もできます。現場では先生ですし大事なポジションです。助教員検定の内容はベーシックで、もっと高いレベルで講習、実技等もというご意見もあると思いますが、山形県連ではバランスよく全体を見ていると思っていますので、県連でも9人位の助教員検定をしています。教員検定と同じレベルでやっています。教習実技は最初に見本をやる人が生徒役でテイクオフをサポートする人が次に生徒役になって他の人が誘導、夜は学科が出来ますので教員検定と同じレベルは出来ます。ガイドを作ってやってもよいと思います。会長にお願いですが、急ハンドルは切れないのでシフトしていくということでは、あまりにも遅いと役を果たさないのでスピード感を持って、事故を減らすという大事なことに向けてやれることからやっていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

議長（内田会長）：JHFでこういうことを決めただけ県連で説明が付かないということがないように、総会の総意で目的を決めたら、県連内でも自分の所は徹底するというのを合意の上で進めたいと思いますのでさらにご意見ををお願いします。

福島県連：去年の決算書で分かるように申請料が6桁行っていません。これだけいる県連の中でやっていない県連もあると思います。助教員の質を上げると言っていますがここで決定ではなく、県連に持ち帰って来年の総会で論議した方がよい話が出ると思います。

京都府連：古い方々はセミナーなどで情報、新しい技術を欲しがっていると思います。JHFとして伊尾木さんみたいに海外の情報を仕入れて来て、セミナーとして各県連や地区で開催していただきたい。古い人達、古い教員の方々は自己流に変わって来ていて忘れておられることがたくさんあると思います。教員更新講習会でも先程意見が出ましたが、同じレベルでやっている、役所仕事でそれを受ければ更新が出来る、何の意味もない。そういう意味では新しい情報等でセミナーを開催して欲しいです。それに付随して若かりし頃に育て上げた方々がパイロットとして飛んでいる方々は非常に危うい段階にあり、古いから教員も頭ごなしに注意することが出来ないという悩みも持っておられると思います。それが事故に繋がり、新規で入って来る親御さんがハングは危ないとか風評、影響を受けます。パイロットの更

新制度、パイロットのセミナーは今更受けても恥ずかしいと思われている方々をいかに掘り起こして改めて教えていくか。それをやっついていかないとスクールの人達に影響するようなことを起こして欲しくないの、JHFでセミナーを増やしていただくと有難いと思います。

今、荒神山でトイイングスクールをやっていますが、20年ぶり、25年ぶりとかの人が増えています。色々考えさせられています。砂丘、斜面はいやだけどトイイングなら楽しんで悪い所が分かる。体力は取り戻せないけど感性は取り戻せるということでプライドあって来られなかった方々も来ています。パラも同じようなことが言えると思いますので、そういう形を取り入れていけば、掘り起こしと新規に対する影響が少ないと思います。

議長（内田会長）：セミナーを行うことが有効であるということで、委員会に提案をして実行に移すことは可能だと思います。京都府連から意見として出ただけなので、他からも意見を。昨年の総会までは安全セミナーについて、各都道府県連盟で安全セミナーを開けるように資料を選んでいただき独自に開催出来るように用意する方向でした。今回は、JHFが講師を用意することに変えたらどうかと受け取り

ました。そういう方向についてご意見がありましたらお願いします。

京都府連：九州で普及委員会としてやった時に大勢の古い方々も来られました。非常に喜んでいただきました。これをJHFで何とか全国でやっていただきたい。

兵庫県連：兵庫県でも年に1回にスカイフェスティバルを国体の流れからやっていますが、教員、スクール経営者、スタッフの安全面の技術もしかるべきだとは思っていますが、予防出来ない事故が起こった時にどうやってお客様と対応したらよいか、出来るだけ事故を軽減させていくのも大事ですが、事故が起こった時に大きくしないというのも大事ではないかというようなセミナーも出来ないかと思っています。後はマーケティングや集客方法等も教員レベルにセミナーとしてやっていただければ人口も増えますし、安全管理と、何か起こった時の対処法も出来ればよいと思います。

議長（内田会長）：保険とか法律関係についてのテーマについては資料が来ています。難しい内容であるのでしっかりそのことについて話が出来る人を派遣するという方が有効と思っています。

大阪府連：セミナーは大賛成ですが、私の周りではパラで言うと経験年数だけ20年とかありプライドも高いです。セミナーという形で勉強、練習していただきたい方が参加していただけるかというパラグライダーに関しては私の経験からすると疑問です。セミナーに参加しようと言う方は安全についてしっかり考えを持っている方なのですが、昔からやっているからプライドがあって知識、技術も昔のまま体力が落ちて来ている方をどうするか、先程、急ハンドルということを言われていましたが、誤解されないように言っておくと、パイロット更新講習や剥奪ではなく、あなたはそろそろ危ないですよ、もう少し勉強した方がよい、もう少し練習をした方がよいということを組織で知らせていくことがJHFとして必要なと思います。それが保険にも繋がって、それをやっついていけば何とかなるかと思っています。

京都府連：エリアの管理の方が協力してくれないと難しいです。大会だけでフライヤーを集めて活性化を狙っているというのがあります。それ以前の問題で大会に出ない人もいます。エリアで楽しく集まった所でセミナーをする、エリアの管理の方々に協力をしてもらったらうまくいくと思います。バーベキューをやっついて新しい人と古い人の交流とかをするとうまくいくと思います。

山形県連：セミナーも大賛成なのですが、来ない人をどう来させるかですが、技能証の更新、先生がきちんと客観的な技術で言えるのも大事ですが、リパックのタグもそうですが20年前のレスキューでは飛んでは駄目ですよということも一つのきっかけになると思います。俺に飛ばせないのかという弱い立場の所もありますので、規則があって、客観的にそれに基づいてやっているというのがないとやり易いと思います。ハングの事故もありましたし、高圧線の事故もありました。今やっている人が辞めちゃう

し、家族の関係もあり始められないということもあります。事故が1件起こると迷惑なことなので、繰り返しになりますが、こうなると危ないから困るという制度的なバックアップもスピードアップをお願いします。

議長（内田会長）：3年越しの議題になっており、指導者の言うことを効かないパイロットを飛ばなくさせる制度が欲しいと要望され報告したこともあります。そちらの方向に進んでいいか、当時剥奪はどうか、それが3年経って報道でこれだけ出てマイナス影響の方が大き過ぎて、いよいよ動かないといけないのではと皆さんから言われていると感じています。

香川県連：韓国のパラモーターでは免許がないと飛んではいけないと言われたそうです。自分のエリアで事故が起きるのは高齢の方だったり、言うことを聞かなかつたりすると思うのですが、それは具体的な数字を出して話をしていかないと。今の話だと何も具体性がないです。教員検定員は教員検定もされるのですが、事故調査もすることになっていると思います。それは機能していて、JHFで事故があったらちゃんと調査してどこに原因があったという調査は出来ているのでしょうか。

埼玉県連：古い人達、言うことを効かないパイロットがいるようですが、関東のエリアではそういう人は一人もいません。関西には大勢いるのでしょうか。

議長（内田会長）：私が3年前にパイロットの規制をと言われたのは関東のエリアの管理者からです。

奈良県連：流れがあって、古い方は今のしっかりしたエリアではなく、ややこしい所で練習をしていた人達がいてアバウトな人間が多いと思います。私は営業ではないので、駄目なものは駄目なので止めておけ、レスキューも10年過ぎていけば止めます。命をお金で買うかパラで買うかですから。それで亡くなってもあなただけの問題ではないと門前払いです。

埼玉県連：日本全国がそういう状態なのかと誤解が思われるのと、この業界がそういうものかというイメージに取られてしまいます。我々からするとそんな人間はいないと言いたい。うちも60歳以上の人もたくさんいますが皆さん上手いので心配するような人はいません。違和感を覚えます。

京都府連：私のエリアの平均年齢は22歳です。50代以上とか高齢の方が多くなっているという私の所での経験から言いました。関西が多いという訳ではありません。古い人達が来ると改めて新鮮な感動を受けて今こういう技術かとうまく飛んでいます、今の人達からしたら技術的には危ないのです。年齢的にも感性が落ちていて目も悪くなります。高齢になってもまともに飛んでいると言っていますが、いつミスが来るかは分かりません。血圧とか色々な要因があると思います。高齢の方が増えているということですが。

大阪府連：事故率を見ても年輩の方が多なのが事実です。車の免許でも高齢者の方に対しては免許の取り上げはないですが控えた方がよいですとか、こういうシールを貼ってくださいということはしています。JHFとしては今迄全くなにもしていません。これだけ事故が増えていて何の対応もしていないというのは、マスコミ等に聞かれても問題だと思います。具体的な案が必要であれば、反射神経を試すことで、目の検査でも体操だけでも良いと思います。それが100%向上に繋がるとはならないとは思いますが、意識の向上、啓蒙活動になると思います。危険を伴うスポーツで一度ライセンスを与えたら放ったらかし、JHFとして何もしないとういことはモラル的にも問題だと思います。

議長（内田会長）：内部では委員会でも検討して来ましたが、でも具体的にどうするというのが発表出来ないのは事実です。出来なかったのは年齢で線を引くのか、何か医学的な保証で線を引くのか、一度引いた線は上げたり下げたり出来るのか、制度的に考えたのでその線引きができないということです。皆さんからの宿題として次期理事会の宿題にします。

司会より出席者に謝意が表明され、閉会が宣言された。

この議事録が事実と相違ないことを確認し、記名捺印する。

平成25年8月 2日

議長・理事 内田孝也 印

理事 荒井健雄 印

理事 大沢 豊 印

理事 菊池守男 印

理事 工藤修二 印

理事 安田英二郎 印

理事 山口淳一 印

監事 市川 孝 印

議事録作成人： 桜井 加代子